

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立 西保木間小学校 校長 佐分利 規雄

1 学校教育目標

- よく考える子：様々な問題を解決するために、多様な考えをもてる子
- 思いやりのある子：よりよい生活を目指して相手を尊重し、助け合う子
- たくましい子：困難に直面してもあきらめず、より高い目標に向かい努力し続ける心と体をもつ子

2 現状の学校図書館の課題

- 授業での学校図書館活用の積極性に、教員間で差がある。
- 読書好きな児童は多いが、読む力、書く力の広がりにかける。
- 児童数に対する蔵書数は、基準を大きく上回っているが、蔵書構成割合は国基準と大きな差がある。

3 今年度の学校図書館の目標

- ①児童の読書に対する意欲を高め、豊かな心情を幅広い知識を身に付けさせる。
- ②多様な資料から目的に応じた情報を選んで、課題解決する能力を伸ばす。
- ③様々な取り組みを通して本の楽しさに触れ、日常的に本に親しむ態度を養う。
- ④学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、児童の読書に対する意欲を高める。

4 今年度の重点取組

- ① 年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。
- ② 学校図書館を活用することによって、児童の読書量が確保する。
- ③ 学校図書館で学習が円滑にできるように、図書館資料の整備に努める。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	① としょかんへいこう むかしばなしをよもう 自どう車ずかんをつくろう ② 生きものクイズ 読書の広場「お話びじゅつかん」を作ろう ③ 食べ物のひみつを教えます ④ 分類をもとに本を見つけよう 「音読発表会」をしよう ⑤ 図書館を使いこなそう 作家で広げる私たちの読書 ⑥ パネルディスカッションー地域の防災 ひろがる読書の世界
社会	③ 昔の道具 ④ 東京都調べ ⑤ 様々な土地の暮らし 自然災害から人々を守る ⑥ 世界調べ
算数	⑥ 算数卒業旅行
理科	③ 昆虫調べ ④ 月や星 ⑤ 人のたん生 雲と天気
生活	① なかよくなるうね、小さなともだち ② めざせ生き物はかせ やさいをそだてよう 作ってためして
総合	③ 地域の祭りを調べよう ④ パラスポーツを調べよう ユニバーサルデザインを見つけよう ⑤ 食品ロスについて調べよう 自然災害から身を守ろう ⑥ 将来の仕事調べ

実践の評価

図書資料の活用

- ・ 年間学習指導計画に基づき、学校図書館担当と図書支援員に図書資料の準備を依頼していたことにより、児童が円滑に読書、調べ学習を行うことができた。
- ・ 児童・教員からのリクエストに対応し、支援員が本の紹介、学校図書館オリエンテーション等を行い、充実した学習の時間が確保できた。

学校図書館での学習

- ・ 学習しやすいよう書架が整理されているため、児童は目的に合った学校図書館利用ができた。
- ・ 書架や机のレイアウトが工夫されており、大きな机や大きな台を利用して、複数の書籍を比べて学習することができた。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

- ① 図書館利用時間を確保する。(火曜、木曜のそれぞれ中休み、昼休み)
- ② 毎月、図書室から教室に読書用の本をクラスへ貸し出す。(各教室40冊)

(2) 主な行事の取り組み

- ① 読書月間年3回
- ② 絵本給食(月2回程度)

(3) 図書委員会などの取り組み

- ① 図書館開館時の貸し出し、返却手続き
- ② 読書月間のノベルティーづくり
- ③ 児童朝会での図書館PR

(4) 環境整備の取り組み

- ① 請求記号を3桁に統一し、分類の理解を深める。
- ② 教科学習に関係するテーマ別の本の掲示を行い発表する。

(5) 司書・外部との連携

- ① 展示や掲示を工夫し、図書館の環境を整える。
- ② 学級担任との共通理解を図る機会を確保し、資料準備をより充実させる。
- ③ 図書ボランティアによるクリスマスお話を実施する。

実践の評価

図書館利用

- ・ 休み時間の開館を、支援員の出勤する週2回の他、7月～10月までの校庭改修工事期間は、専科教員を係に配当し週5回にしたことで、読書に親しむ児童が多くみられた。
- ・ 読書月間では、読書ビンゴや展示の工夫により、本から発展した学習に広がりが見られた。
- ・ 絵本給食では、行事に即した内容での読み聞かせで、本の内容について教室内で会話する姿が見られた。
- ・ 環境が常に整理されており、学校図書館の利用のマナーのみならず、教室に置いてある本を整理する意識の高まりもあった。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	調べ学習において、図書館の資料を2単元以上活用した教員の割合：70%	◎86%達成。 7学級中6学級で実施

②	学校図書館を活用することによって、児童の読書量を確保する。	児童の年間平均貸出冊数：40冊	◎41、3冊達成
③	学校図書館で学習が円滑にできるように、図書館資料の整備に努める。	教科書改訂に合わせて、関連資料を新規購入知りする単元数：6単元（1単元／学年）	◎11単元達成 国語の他にも、生活、社会で関連資料の購入ができた。

8 学校図書館全体に関する自己評価

- 1 年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。
 - ・ 教科等における年間指導計画の実践により、各教科で学校図書館を利用した学習をすすめることができた。各資料を選ぶ力、各資料からまとめる力をさらに付けていくことが課題である。
- 2 学校図書館を活用することによって、児童の読書量を確保する。
 - ・ 毎月500～600冊程度（一人当たり3.5冊程度）の貸し出しがある。パワーアップタイムでの読書の他、国語や社会、理科等の調べ学習での利用、読書月間で児童の読書意欲を高める工夫、長期休業中の貸し出し、給食中の読み聞かせ等、読書に興味関心をもたせる工夫をさらにすすめてきた。読書の時間の確保、家庭での読書の時間を伸ばしていくことが課題である。
- 3 学校図書館で学習が円滑にできるように、図書館資料の整備に努める。
 - ・ 配当予算の活用をすすめてきた。展示に「どうぞの椅子」にからめ「どうぞの本」コーナーを設けたり、「絵本で世界を旅しよう」では国や世界地図を展示したりするなど、学校図書館資料に興味をもたせる工夫を行い、多くの児童が参加した。休み時間にも自由に読書ができる体制を定着させていくことが課題である。